

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104878
法人名	有限会社 ファイン・ケア・サービス
事業所名	グループホーム優輝
所在地	愛媛県松山市北斎院町476番地1
自己評価作成日	平成22年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族通信や優輝新聞がとても充実していて、外部の方には優輝の良さが伝えられ、ご家族の方には利用者さんが安心して暮らしている事を理解して頂けるようになっている。また、職員が常に新しい知識や情報を得られるように、会社は研修を積極的に受講出来るよう、様々な配慮を行っており、職員の資質の向上に繋がっている。さらに、社内研修も2ヶ月に1度、定期的開催しており、濃い内容になっているので、毎日のケアにとってもプラスになっている。『職員が楽しくなければ、良いケアは出来ない』と考え、様々な支援を行っている。また、『職員が不安に思っていることは、利用者さんの急変時の対応』であり、その解消のため、2ヶ月に1度、定期的にAED救命救急講習会を実施しており、不安が自信に繋がる努力をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの機関紙である「家族通信ほのぼの」と「優輝新聞虹の架け橋」は、開設以来毎月発行されている。家族との信頼関係の構築とホームの運営を周知することが目的で、6年間のホームの取り組みを記した貴重な財産となっている。利用者の生活の質は職員のスキルに影響を受けるとの考えから研修にも力を入れており、向上心が感じられる。前の公園に外出しやすいこともあり、地域に積極的に関わりを持つ姿勢は近所付き合いをスムーズにし、多く外出の機会を持つことを後押ししている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム優輝

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 上岩 茂

評価完了日 平成22年 10月 18日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 優輝の運営理念は、会社側が作ったものではなく、職員に『どんなグループホームにしたいですか?』というアンケートを実施して、職員の意見や想いを集約したものになっている。また、日々運営理念の実践に向けて、ケアの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 「地域に貢献できるホーム」を理念に管理者が率先して地域と関わる活動を行っている。その活動がホームの運営と連動しており、利用者の日常に自然な形で地域が存在している。職員も近所付き合いをしており、全員で理念を共有している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 経営理念に『地域に貢献できる会社を目指す』と明記し、地域から何かしてもら関係ではなく、地域の社会資源の一つとして地域住民のお役に立てるホーム作りを目指している。また、救命救急講習会や防災訓練を地域の方と一緒に毎年実施している。『まもるくんの家』にも登録している。</p> <p>(外部評価) 事業所として地域に貢献できることはないかと絶えず考えており、松山市が行っている「プチ美化運動」に参加し、ホーム近辺を定期的に清掃している。散歩しながら車いすにごみ袋を掲げて利用者も参加している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を2ヶ月に1回欠かさず開催しており、会議の中で利用者の日常生活の様子や支援の様子を紹介し、認知症やグループホームに対する理解を深める努力を続けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議で話し合った内容を、優輝新聞やカンファレンスを通して、全職員が把握し、話し合いを行い、ケアの質の向上に役立っている。また、毎回数名の職員が参加し、直接地域の方の声を聞く事が出来るようにしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、評価結果の報告や体験型企画、利用者へのサービスについて議題は多岐に渡っており、参加者と色々な角度から意見交換を行っている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議に松山市介護保険課の職員や地域包括支援センター職員にも参加して頂き、ホームの状況を報告し、理解を得られるよう努力している。また、松山市が行っている集団指導や研修会にも積極的に参加し、協力し合える体制作りにも努めている。</p> <p>(外部評価) 公的な研修への参加や問い合わせ等で行政との付き合いを深めている。また、社会福祉協議会との関わりにも力を入れるなど、色々な機関との協力関係を積極的に構築している。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 『身体拘束ゼロへの取組み』のマニュアルを作成し、全職員に説明するとともに、配布している。身体拘束をしないケアの実践に努めている。</p> <p>(外部評価) ホームでは身体拘束の指定基準を一つひとつ検証し、日常のケアの中の事例を挙げて、身体拘束ゼロの取組みを行っている。ベッド柵の問題では家族等と相談を行いながら、プロとして安全面を疎かにしないよう取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 『高齢者虐待防止法』のマニュアルを作成し、全職員に説明するとともに、配布している。虐待をしないケアの実践に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を通して、職員全員が権利擁護に関する制度の理解を深めている。また、管理者が愛媛県社会福祉士会に所属しており、必要な時には、協力を得られる体制が作れている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前のご家族との契約時にホームの方針や理念、取り組んでいる活動や契約の内容等について、十分に説明を行っている。また、ご家族への説明が必要な事柄についても、事前に十分な説明を行うと共に、不明な点や質問等にも、お互いが納得出来るよう努力している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族が面会に来られた際に、生活の様子などを説明し、家族からも意見や要望をお聞きして、日々のケアに活かしている。 (外部評価) 家族等の面会時に利用者の近況報告を管理者やユニット主任が中心に行い、意見を聞き取るようにしている。「家族通信ほのぼの」と「優輝新聞」を毎月発行していることが、家族等との会話を豊かにし繋がりを密にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月のカンファレンス等を通し、職員から気楽に、運営に関する意見が出せるよう配慮している。また、出た意見や提案に対し、早期実現に向けて、迅速な対応を図っている。</p> <p>(外部評価) 運営者が管理者であるため現場での話し合いや提案が迅速に反映される。職員は仕事にやりがいを感じており、意見や提案を積極的に行っている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 『職員が楽しく働けなければ、良いケアは出来ない』と考えており、職員が働きやすい環境作りに全力で取り組んでいる。また、職員が自分の仕事について評価できるシステムを作っている。その際自分の考えを会社に伝える機会も設けており、常に適正評価を心がけ、職員が向上心を持って働ける環境作りを行っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 社内研修を2ヶ月に1度、救命救急講習を2ヶ月に1度実施している。また外部の研修に関しては、案内があれば職員に開示し、希望者を募り、参加してもらっている。その際、職員が研修を受けやすいよう、研修費用は全額会社負担としている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会の開催する職員研修会や相互研修に参加したり、地域包括支援センターの主催する包括単位の同業者の研修会にも、積極的に参加し交流を深めている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 常に利用者が感じていることに早期に気付けるために、利用者に接する時間をなるべく多く取るよう、心がけている。些細な事でも、見落としのないように、利用者が安心して過ごせるよう努力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時のアセスメントの際、ご家族などから十分な聞き取りを行い、本人の不安解消に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族や主治医などと相談・協力し合いながら、必要な医療や介護サービスを提供出来るよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 『利用者のために』ではなく『利用者の立場に立った』ケアの実践を心がけており、利用者の喜びを私達の喜びとして、共感出来ることを理念とし、毎日の生活で喜怒哀楽を共にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族通信や優輝新聞を毎月発行することにより、利用者のホームでの生活をしてもらうと共に、ホームのケアの方針や利用者になんか暮らして頂きたいという、私たち職員の想いを理解して頂けるよう、情報公開及び信頼関係作りに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人や友人の方が、面会に来られた時は、利用者について現在の様子を伝え、帰る際には記念写真を撮り、後日郵送するなどして、関係の継続を支援している。 (外部評価) 利用者がホームの生活に馴染むためには、それまでの関係性の維持が必要と考えており、知人等が訪ねてくると「ほのぼの通信」で日常生活を紹介し、訪問者もホームに馴染めるように取り組んでいる。また訪問者とは利用者を交えて記念写真を撮るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握して、共に出来る事や、助け合いながら出来る事を支援し、孤立しないよう配慮している。また、利用者の希望により、仲良しの方との一緒の入浴や散歩などにも取り組んでいる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院などで、やむを得ず退居になった場合にも、病院へお見舞いに行ったり、ご家族さんにお会いする機会があった場合は、近況を話し合ったりしている。入院時には、介護サマリーを作成し、ホームでの生活がわかるよう情報提供に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの思いや希望、意向などの把握に努めている。希望に添えない時など、実現が困難な場合は、ケアカンファレンスなどで、本人の立場に立って考え、話し合いを行い、利用者本人にとって、一番いい方法を導き出すよう努力している。 (外部評価) 利用者の思いや意向を職員が丁寧に聞き取り個人ノートにしっかりと記録され、記載内容に表題を付ける等記録が埋もれていかないような工夫をしている。職員全員で本人の意向や希望に沿えるケアを目指している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に利用者本人やご家族から聞いたり、入居後も本人やご家族との会話の中で理解し、把握するよう努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 朝の健康観察は、看護師が行っている。『いつもと違う様子はないか』の早期把握に努めている。また、その日の健康状態、活動の様子を見て、出来る事・出来ない事を把握し、職員間で情報交換や申し送りを行い、適切な支援が出来るよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 介護計画作成時には、利用者本人やご家族から希望や意見を聞き、適切な介護計画の作成に努めている。また、毎月のケアカンファレンスを通し、職員間でも情報交換を行い、意見を集約した介護計画作りやモニタリングに活用している。</p> <p>(外部評価) 介護計画の作成には日々の記録が重要と考え研修を重ねている。職員は研修が記載内容の見直しにも繋がったと実感しており、記録方法の整備を進めている。介護記録を評価票にまとめモニタリングに客観性を持たせている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 日々の様子や、ケアの実践などについては、経過総合記録に記入し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しなどに活用している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 多機能施設で無いため、多機能性を活かした支援は行えないが、外部の関係機関等の協力により、個別リハビリや訪問美容、ボランティアなどの外部サービスを利用出来るよう柔軟な支援を行っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 近くの商店に買い物に出かけたり、公園に散歩に出かけ、自然とのふれあいを楽しんでいる。保育園の子供たちを招いて、子供たちとの交流を楽しんでもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> 利用者およびご家族の希望を尊重し、納得されて適切 な医療が受けられるよう支援している。ご家族による 病院受診時もホームでの様子が分かるよう、情報提供 している。皮膚科・眼科・歯科などの専門医の場合 は、個々の病院に管理者か看護師が同行し、受診する ようにしている。	
			<p>(外部評価)</p> 利用者それぞれの希望するかかりつけ医の診察を基本 としているが、ホームの協力医院での往診でも医療的 な見守りを行っている。医療的な窓口は看護職員が担 い、適切な医療が受けられるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> 介護職員と看護職の間には、円滑に情報が共有出来る ように日報が作成されており、どんな些細な事柄で も、すぐ記入し必要に応じて主治医との連携を取り、 早期受診が可能な体制を取っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> 入院した際は、病院関係者との情報交換を行い、早期 退院のための支援を行っている。また、日頃から主治 医とは連絡を密にして、急変時の対応などにも、協力 して頂けるよう関係を築いている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> ターミナルケアの指針とホームで出来る事、出来ない 事などを明記した承諾書を作成しており、ご家族の希 望や必要に応じて、対応が出来る体制を整えている。 また、ターミナルケアに理解のある病院に協力病院に なってもらっている。	
			<p>(外部評価)</p> ターミナルケアのマニュアルは、管理者や職員全員で よく話し合われた上で作成されている。ターミナルに 立ち会った経験のある職員とのない職員がいるため、 共有化や資質の向上について検討をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 2ヶ月に1度セCOMの協力を得て、AED救命救急講習会を開催し、急変時の対応の訓練を繰り返し行って、職員全員が対応出来るようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 社内での体制を整えると共に、避難訓練に地域住民の方も参加して頂き、災害時に地域住民の方にも協力が得られるような取り組みをしている。 (外部評価) 防火訓練や避難訓練は、地域住民と共に定期的に行っており、地域の自主防災訓練にも参加している。消防法の改正によりスプリンクラーの設置が義務付けられたが、早々に対応工事を行い設置が完了している。災害対策の一環として警備会社との契約も行っており、利用者の安全保障には万全を期している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりを尊重したケアに取り組んでおり、単調な声かけや対応にならないように、個々の性格や体調などを観察し、声のトーンや大きさに注意した支援を行っている。 (外部評価) 職員は利用者それぞれの状態に合わせ、娘になったり姉妹になったりと利用者が居心地良いように対応している。利用者への声かけや誘導する姿勢は職員により異なるが、利用者を人生の先輩として敬う気持ちを感じることができる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の『自分で出来る』『自分で選べる』を尊重した自立支援のケアを心がけている。職員の立場からではなく、利用者の立場に立ったケアに取り組んでいる。生活の主体者は、利用者であることを常に認識し、出来ない事だけ支援するよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員は、利用者個々の状態や希望に合わせた対応を心がけている。また、ホームとしては、他の利用者に迷惑をかけない範囲の自由を尊重しており、利用者一人ひとりのペースで、自由に生活出来るよう、支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣の際、季節に合った好きな洋服を選んでもらっている。また、理容・美容については、利用者の希望により、訪問美容師で対応している。カットだけでなく、毛染めなどのサービスも利用出来るようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) おかずの盛り付けやお茶を入れて貰ったり、食材の皮むき等出来ることがあれば、お願いをしている。利用者と同じ食事を摂ることで、会話も弾み、食事が楽しいと思ってもらえるよう努めている。食器洗いや食器拭きも、お願いをして職員と一緒にしている。 (外部評価) 食後の片付けではそれぞれの役目が決まっており、利用者がやりがいを持って行っているのを職員は見守っている。食事に時間がかかる利用者には他の利用者が「ゆっくり食べな」と声をかける等、ゆったりとした雰囲気の中で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 医師・看護師と連携を取りながら、その人に合わせた栄養バランス、水分確保が出来るように支援している。一人ひとりの状態に合わせた食事の支援を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯が無い利用者には、ハミングッドを利用し、口腔内の清潔が保てるように支援している。口腔ケアが習慣になるように、声かけの工夫をしている。入れ歯の方も定期的に入れ歯洗浄剤を用い、清潔を確保している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) リアルタイムで記録している排泄チェック表を見て、トイレの時間誘導やトイレの声かけなどで、オムツ使用や失禁の軽減に努力している。	
			(外部評価) 職員は排泄チェック表を通して利用者それぞれの排泄を見守っており、時にはトイレへの誘導や声かけを行っている。また、活動内容や体調などを考慮し、布パンツ、パット、紙おむつ等を適切に使い分ける対応も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄のリズムを把握し、なるべく同じ時間帯にトイレ誘導し、腹部マッサージなどを施すようにしている。食事もお通じを促すような食材を利用するなどの努力をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴チェック表で管理しながら、一人ひとりの希望や衛生面の保持などの必要性に応じて、入浴の声かけを行っている。また、入浴を度々拒否される利用者に対しても、声かけの工夫を行っている。	
			(外部評価) ホームでの生活が長い利用者が多いため、それぞれの入浴のリズムが確立されており、それに沿った入浴支援が行われている。新しい利用者が入った際には順番が変わる場合もあるが、生活のリズムが大きく変わらないように職員が配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者本人の希望や生活習慣に即した支援を行っている。本人の生活習慣を尊重し、その方に合った睡眠が取れるよう支援している。また、昼夜逆転にならないように努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬説明書をいつでも職員が確認出来るようにしている。また、医師や薬剤師からの指示を、病院受診・往診申し送りノートにより、周知徹底をしている。また、薬が変わった場合や体調不調時等様子観察が必要な時期については、状況の変化を職員全員が把握出来るようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 職員は日々の会話の中で、本人の生活歴や好みを観察し、本人の得意な事は、職員と一緒にいたりしている。時には、教えてもらったりしながら、本人の出来る力を引き出すような支援をしている。嗜好品も楽しめるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日1度は外に出て、今の季節を肌で感じて頂けるよう支援している。また、ご家族との外出の際も、服薬準備などの外出支援を行っている。必要性に応じて、ご家族での外食時の送迎支援も行っている。 (外部評価) ホームの前には川を挟んで公園があり、外気浴が気軽に楽しめるという好立地が外出を日常的なものにしている。外出を嫌がる利用者にも玄関先での外気浴を勧めたりしながら、日常生活の気分転換に外出を上手く取り入れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族からお預かりしているお金や、立て替え払いでジュースを買って頂いたり、自分のおやつをスーパーで選んだりと買い物も出来る限り支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話では、取次をするだけでなく、プライバシーに配慮しながら、仲を取り持つ必要がある場合は、援助するようにしている。利用者の利便性向上のため、今年、骨伝導式の電話機を導入した。手紙では、プライバシーに配慮しながら、本人の同意の元で、読み聞かせを行ったりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングの椅子やソファなどで、利用者が各々好きな場所で居心地よく過ごせるよう配慮している。また、ホームの周りに大きな建物がなく、景色を含めた環境がすごく良いため、利用者も落ち着いた生活が来ている。	
			(外部評価) 全体的にゆったりとした設えになっている。共用空間のスペースが広く、大きなテーブルを並べても問題なく、開放的である。玄関口やホールの一部などにイスが置いてあり、利用者が気分に応じて活用している。居心地良く過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者の希望や人間関係などにより、いつも座る場所を決めている。時には席替えも必要なケースもあるが、トラブルにならないように考慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には、エアコン・カーテン・介護用電動ベッド・整理ダンス・洋服ダンスと大きな物は、ホームで用意したものを使って頂いている。その他、馴染みの物の持ち込みは制限していないので、本人やご家族の希望により、自由に持ち込んで頂いている。	
			(外部評価) 利用者それぞれの部屋には、思い出の品々、ホームでの生活の写真や絵などが飾られており、個性豊かである。ホームの備品であるベッドや洋服ダンス、持ち込みの家具等は、居心地良く配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 出来るだけ車椅子に頼らない生活を送って頂くために、また、廃用症候群の予防のため、配置や手すりの必要性などを細かに観察し、少しでも長く安全に、自分の足で歩いて頂けるように配慮している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104878
法人名	有限会社 ファイン・ケア・サービス
事業所名	グループホーム優輝
所在地	愛媛県松山市北斎院町476番地1
自己評価作成日	平成22年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族通信や優輝新聞がとても充実していて、外部の方には優輝の良さが伝えられ、ご家族の方には利用者さんが安心して暮らしている事を理解して頂けるようになっている。また、職員が常に新しい知識や情報を得られるように、会社は研修を積極的に受講出来るよう、様々な配慮を行っており、職員の資質の向上に繋がっている。さらに、社内研修も2ヶ月に1度、定期的開催しており、濃い内容になっているので、毎日のケアにとってもプラスになっている。『職員が楽しくなければ、良いケアは出来ない』と考え、様々な支援を行っている。また、『職員が不安に思っていることは、利用者さんの急変時の対応』であり、その解消のため、2ヶ月に1度、定期的にAED救命救急講習会を実施しており、不安が自信に繋がる努力をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの機関紙である「家族通信ほのぼの」と「優輝新聞虹の架け橋」は、開設以来毎月発行されている。家族との信頼関係の構築とホームの運営を周知することが目的で、6年間のホームの取り組みを記した貴重な財産となっている。利用者の生活の質は職員のスキルに影響を受けるとの考えから研修にも力を入れており、向上心が感じられる。前の公園に外出しやすいこともあり、地域に積極的に関わりを持つ姿勢は近所付き合いをスムーズにし、多く外出の機会を持つことを後押ししている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム優輝		
(ユニット名)	2F		
記入者(管理者)	氏名		
	上岩 茂		
評価完了日	平成22年	10月	18日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 優輝の運営理念は、会社側が作ったものではなく、職員に『どんなグループホームにしたいですか?』というアンケートを実施して、職員の意見や想いを集約したものになっている。また、日々運営理念の実践に向けて、ケアの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 「地域に貢献できるホーム」を理念に管理者が率先して地域と関わる活動を行っている。その活動がホームの運営と連動しており、利用者の日常に自然な形で地域が存在している。職員も近所付き合いをしており、全員で理念を共有している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 経営理念に『地域に貢献できる会社を目指す』と明記し、地域から何かしてもらう関係ではなく、地域の社会資源の一つとして地域住民のお役に立てるホーム作りを目指している。また、救命救急講習会や防災訓練を地域の方と一緒に毎年実施している。『まもるくんの家』にも登録している。</p> <p>(外部評価) 事業所として地域に貢献できることはないかと絶えず考えており、松山市が行っている「プチ美化運動」に参加し、ホーム近辺を定期的に清掃している。散歩しながら車いすにごみ袋を掲げて利用者也参加している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を2ヶ月に1回欠かさず開催しており、会議の中で利用者の日常生活の様子や支援の様子を紹介し、認知症やグループホームに対する理解を深める努力を続けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で話し合った内容を、優輝新聞やカン ファレンスを通して、全職員が把握し、話し合いを行 い、ケアの質の向上に役立てている。また、毎回数名 の職員が参加し、直接地域の方の声を聞く事が出来る ようにしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、評価結果の報告や体験型企画、利用 者へのサービスについて議題は多岐に渡っており、参 加者と色々な角度から意見交換を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に松山市介護保険課の職員や地域包括支 援センター職員にも参加して頂き、ホームの状況を報 告し、理解を得られるよう努力している。また、松山 市が行っている集団指導や研修会にも積極的に参加 し、協力し合える体制作りにも努めている。	
			(外部評価) 公的な研修への参加や問い合わせ等で行政との付き合 いを深めている。また、社会福祉協議会との関わりにも 力を入れるなど、色々な機関との協力関係を積極的に 構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 『身体拘束ゼロへの取組み』のマニュアルを作成 し、全職員に説明するとともに、配布している。身体 拘束をしないケアの実践に努めている。	
			(外部評価) ホームでは身体拘束の指定基準を一つひとつ検証し、 日常のケアの中の事例を挙げて、身体拘束ゼロの取 組みを行っている。ベッド柵の問題では家族等と相談 を行いながら、プロとして安全面を疎かにすることの ないように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 『高齢者虐待防止法』のマニュアルを作成し、全職員に説明するとともに、配布している。虐待をしないケアの実践に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を通して、職員全員が権利擁護に関する制度の理解を深めている。また、管理者が愛媛県社会福祉士会に所属しており、必要な時には、協力を得られる体制が作れている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前のご家族との契約時にホームの方針や理念、取り組んでいる活動や契約の内容等について、十分に説明を行っている。また、ご家族への説明が必要な事柄についても、事前に十分な説明を行うと共に、不明な点や質問等にも、お互いが納得出来るよう努力している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族が面会に来られた際に、生活の様子などを説明し、家族からも意見や要望をお聞きして、日々のケアに活かしている。 (外部評価) 家族等の面会時に利用者の近況報告を管理者やユニット主任が中心に行い、意見を聞き取るようにしている。「家族通信ほのぼの」と「優輝新聞」を毎月発行していることが、家族等との会話を豊かにし繋がりを密にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月のカンファレンス等を通し、職員から気楽に、運営に関する意見が出せるよう配慮している。また、出た意見や提案に対し、早期実現に向けて、迅速な対応を図っている。</p> <p>(外部評価) 運営者が管理者であるため現場での話し合いや提案が迅速に反映される。職員は仕事にやりがいを感じており、意見や提案を積極的に行っている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 『職員が楽しく働けなければ、良いケアは出来ない』と考えており、職員が働きやすい環境作りに全力で取り組んでいる。また、職員が自分の仕事について評価できるシステムを作っている。その際自分の考えを会社に伝える機会も設けており、常に適正評価を心がけ、職員が向上心を持って働ける環境作りを行っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 社内研修を2ヶ月に1度、救命救急講習を2ヶ月に1度実施している。また外部の研修に関しては、案内があれば職員に開示し、希望者を募り、参加してもらっている。その際、職員が研修を受けやすいよう、研修費用は全額会社負担としている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会の開催する職員研修会や相互研修に参加したり、地域包括支援センターの主催する包括単位の同業者の研修会にも、積極的に参加し交流を深めている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 常に利用者が感じていることに早期に気付けるために、利用者に接する時間をなるべく多く取るよう、心がけている。些細な事でも、見落としのないように、利用者が安心して過ごせるよう努力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時のアセスメントの際、ご家族などから十分な聞き取りを行い、本人の不安解消に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族や主治医などと相談・協力し合いながら、必要な医療や介護サービスを提供出来るよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 『利用者のために』ではなく『利用者の立場に立った』ケアの実践を心がけており、利用者の喜びを私達の喜びとして、共感出来ることを理念とし、毎日の生活で喜怒哀楽を共にしている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族通信や優輝新聞を毎月発行することにより、利用者のホームでの生活をしてもらうと共に、ホームのケアの方針や利用者幸せに暮らして頂きたいという、私たち職員の想いを理解して頂けるよう、情報公開及び信頼関係作りに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人や友人の方が、面会に来られた時は、利用者について現在の様子を伝え、帰る際には記念写真を撮り、後日郵送するなどして、関係の継続を支援している。 (外部評価) 利用者がホームの生活に馴染むためには、それまでの関係性の維持が必要と考えており、知人等が訪ねてくると「ほのぼの通信」で日常生活を紹介し、訪問者もホームに馴染めるように取り組んでいる。また訪問者とは利用者を交えて記念写真を撮るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握して、共に出来る事や、助け合いながら出来る事を支援し、孤立しないよう配慮している。また、利用者の希望により、仲良しの方との一緒の入浴や散歩などにも取り組んでいる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院などで、やむを得ず退居になった場合にも、病院へお見舞いに行ったり、ご家族さんにお会いする機会があった場合は、近況を話し合ったりしている。入院時には、介護サマリーを作成し、ホームでの生活がわかるよう情報提供に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの思いや希望、意向などの把握に努めている。希望に添えない時など、実現が困難な場合は、ケアカンファレンスなどで、本人の立場に立って考え、話し合いを行い、利用者本人にとって、一番いい方法を導き出すよう努力している。 (外部評価) 利用者の思いや意向を職員が丁寧に聞き取り個人ノートにしっかりと記録され、記載内容に表題を付ける等記録が埋もれていかないような工夫をしている。職員全員で本人の意向や希望に沿えるケアを目指している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に利用者本人やご家族から聞いたり、入居後も本人やご家族との会話の中で理解し、把握するよう努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 朝の健康観察は、看護師が行っている。『いつもと違う様子はないか』の早期把握に努めている。また、その日の健康状態、活動の様子を見て、出来る事・出来ない事を把握し、職員間で情報交換や申し送りを行い、適切な支援が出来るよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 介護計画作成時には、利用者本人やご家族から希望や意見を聞き、適切な介護計画の作成に努めている。また、毎月のケアカンファレンスを通し、職員間でも情報交換を行い、意見を集約した介護計画作りやモニタリングに活用している。</p> <p>(外部評価) 介護計画の作成には日々の記録が重要と考え研修を重ねている。職員は研修が記載内容の見直しにも繋がったと実感しており、記録方法の整備を進めている。介護記録を評価票にまとめモニタリングに客観性を持たせている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 日々の様子や、ケアの実践などについては、経過総合記録に記入し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しなどに活用している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 多機能施設で無いため、多機能性を活かした支援は行えないが、外部の関係機関等の協力により、個別リハビリや訪問美容、ボランティアなどの外部サービスを利用出来るよう柔軟な支援を行っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 近くの商店に買い物に出かけたり、公園に散歩に出かけ、自然とのふれあいを楽しんでいる。保育園の子供たちを招いて、子供たちとの交流を楽しんでもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> 利用者およびご家族の希望を尊重し、納得されて適切 な医療が受けられるよう支援している。ご家族による 病院受診時もホームでの様子が分かるよう、情報提供 している。皮膚科・眼科・歯科などの専門医の場合 は、個々の病院に管理者か看護師が同行し、受診する ようにしている。	
			<p>(外部評価)</p> 利用者それぞれの希望するかかりつけ医の診察を基本 としているが、ホームの協力医院での往診でも医療的 な見守りを行っている。医療的な窓口は看護職員が担 い、適切な医療が受けられるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> 介護職員と看護職の間には、円滑に情報が共有出来る ように日報が作成されており、どんな些細な事柄で も、すぐ記入し必要に応じて主治医との連携を取り、 早期受診が可能な体制を取っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> 入院した際は、病院関係者との情報交換を行い、早期 退院のための支援を行っている。また、日頃から主治 医とは連絡を密にして、急変時の対応などにも、協力 して頂けるよう関係を築いている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> ターミナルケアの指針とホームで出来る事、出来ない 事などを明記した承諾書を作成しており、ご家族の希 望や必要に応じて、対応が出来る体制を整えている。 また、ターミナルケアに理解のある病院に協力病院に なってもらっている。	
			<p>(外部評価)</p> ターミナルケアのマニュアルは、管理者や職員全員で よく話し合われた上で作成されている。ターミナルに 立ち会った経験のある職員とのない職員がいるため、 共有化や資質の向上について検討をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 2ヶ月に1度セCOMの協力を得て、AED救命救急講習会を開催し、急変時の対応の訓練を繰り返し行って、職員全員が対応出来るようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 社内での体制を整えると共に、避難訓練に地域住民の方も参加して頂き、災害時に地域住民の方にも協力が得られるような取り組みをしている。 (外部評価) 防火訓練や避難訓練は、地域住民と共に定期的に行っており、地域の自主防災訓練にも参加している。消防法の改正によりスプリンクラーの設置が義務付けられたが、早々に対応工事を行い設置が完了している。災害対策の一環として警備会社との契約も行っており、利用者の安全保障には万全を期している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりを尊重したケアに取り組んでおり、単調な声かけや対応にならないように、個々の性格や体調などを観察し、声のトーンや大きさに注意した支援を行っている。 (外部評価) 職員は利用者それぞれの状態に合わせ、娘になったり姉妹になったりと利用者が居心地良いように対応している。利用者への声かけや誘導する姿勢は職員により異なるが、利用者を人生の先輩として敬う気持ちを感じることができる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の『自分で出来る』『自分で選べる』を尊重した自立支援のケアを心がけている。職員の立場からではなく、利用者の立場に立ったケアに取り組んでいる。生活の主体者は、利用者であることを常に認識し、出来ない事だけ支援するよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員は、利用者個々の状態や希望に合わせた対応を心がけている。また、ホームとしては、他の利用者に迷惑をかけない範囲の自由を尊重しており、利用者一人ひとりのペースで、自由に生活出来るよう、支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣の際、季節に合った好きな洋服を選んでもらっている。また、理容・美容については、利用者の希望により、訪問美容師で対応している。カットだけでなく、毛染めなどのサービスも利用出来るようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) おかずの盛り付けやお茶を入れて貰ったり、食材の皮むき等出来ることがあれば、お願いをしている。利用者と同じ食事を摂ることで、会話も弾み、食事が楽しいと思ってもらえるよう努めている。食器洗いや食器拭きも、お願いをして職員と一緒にしている。 (外部評価) 食後の片付けではそれぞれの役目が決まっており、利用者がやりがいを持って行っているのを職員は見守っている。食事に時間がかかる利用者には他の利用者が「ゆっくり食べな」と声をかける等、ゆったりとした雰囲気の中で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 医師・看護師と連携を取りながら、その人に合わせた栄養バランス、水分確保が出来るように支援している。一人ひとりの状態に合わせた食事の支援を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯が無い利用者には、ハミングッドを利用し、口腔内の清潔が保てるように支援している。口腔ケアが習慣になるように、声かけの工夫をしている。入れ歯の方も定期的に入れ歯洗浄剤を用い、清潔を確保している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) リアルタイムで記録している排泄チェック表を見て、トイレの時間誘導やトイレの声かけなどで、オムツ使用や失禁の軽減に努力している。	
			(外部評価) 職員は排泄チェック表を通して利用者それぞれの排泄を見守っており、時にはトイレへの誘導や声かけを行っている。また、活動内容や体調などを考慮し、布パンツ、パット、紙おむつ等を適切に使い分ける対応も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄のリズムを把握し、なるべく同じ時間帯にトイレ誘導し、腹部マッサージなどを施すようにしている。食事もお通じを促すような食材を利用するなどの努力をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴チェック表で管理しながら、一人ひとりの希望や衛生面の保持などの必要性に応じて、入浴の声かけを行っている。また、入浴を度々拒否される利用者に対しても、声かけの工夫を行っている。	
			(外部評価) ホームでの生活が長い利用者が多いため、それぞれの入浴のリズムが確立されており、それに沿った入浴支援が行われている。新しい利用者が入った際には順番が変わる場合もあるが、生活のリズムが大きく変わらないように職員が配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者本人の希望や生活習慣に即した支援を行っている。本人の生活習慣を尊重し、その方に合った睡眠が取れるよう支援している。また、昼夜逆転にならないように努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬説明書をいつでも職員が確認出来るようにしている。また、医師や薬剤師からの指示を、病院受診・往診申し送りノートにより、周知徹底をしている。また、薬が変わった場合や体調不調時等様子観察が必要な時期については、状況の変化を職員全員が把握出来るようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 職員は日々の会話の中で、本人の生活歴や好みを観察し、本人の得意な事は、職員と一緒にいたりしている。時には、教えてもらったりしながら、本人の出来る力を引き出すような支援をしている。嗜好品も楽しめるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日1度は外に出て、今の季節を肌で感じて頂けるよう支援している。また、ご家族との外出の際も、服薬準備などの外出支援を行っている。必要性に応じて、ご家族での外食時の送迎支援も行っている。 (外部評価) ホームの前には川を挟んで公園があり、外気浴が気軽に楽しめるという好立地が外出を日常的なものにしている。外出を嫌がる利用者にも玄関先での外気浴を勧めたりしながら、日常生活の気分転換に外出を上手く取り入れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族からお預かりしているお金や、立て替え払いでジュースを買って頂いたり、自分のおやつをスーパーで選んだりと買い物も出来る限り支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話では、取次をするだけでなく、プライバシーに配慮しながら、仲を取り持つ必要がある場合は、援助するようにしている。利用者の利便性向上のため、今年、骨伝導式の電話機を導入した。手紙では、プライバシーに配慮しながら、本人の同意の元で、読み聞かせを行ったりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングの椅子やソファなどで、利用者が各々好きな場所で居心地よく過ごせるよう配慮している。また、ホームの周りに大きな建物がなく、景色を含めた環境がすごく良いため、利用者も落ち着いた生活が来ている。	
			(外部評価) 全体的にゆったりとした設えになっている。共用空間のスペースが広く、大きなテーブルを並べても問題なく、開放的である。玄関口やホールの一部などにイスが置いてあり、利用者が気分に応じて活用している。居心地良く過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者の希望や人間関係などにより、いつも座る場所を決めている。時には席替えも必要なケースもあるが、トラブルにならないように考慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には、エアコン・カーテン・介護用電動ベッド・整理ダンス・洋服ダンスと大きな物は、ホームで用意したものを使って頂いている。その他、馴染みの物の持ち込みは制限していないので、本人やご家族の希望により、自由に持ち込んで頂いている。	
			(外部評価) 利用者それぞれの部屋には、思い出の品々、ホームでの生活の写真や絵などが飾られており、個性豊かである。ホームの備品であるベッドや洋服ダンス、持ち込みの家具等は、居心地良く配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 出来るだけ車椅子に頼らない生活を送って頂くために、また、廃用症候群の予防のため、配置や手すりの必要性などを細かに観察し、少しでも長く安全に、自分の足で歩いて頂けるように配慮している。	